

音楽のよさを味わって聴く児童の育成

～感じ取ったことを仲間と伝え合う活動を通して～

1. 設定理由

現学習指導要領において、〔共通事項〕を支えとし、音楽を聴いて「感じ取ったことを言葉で表すなどの活動」を通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する能力の育成が求められている。

本学級の児童は、音楽を好み、個人でも好きな音楽をよく聞いている。しかし、鑑賞の授業においては、主体的に聴く活動ができていないことが多い。その要因として、児童の多くが楽器の音色を聴き分けたり、音楽的な特徴を言葉で表現したりすることを苦手としていることが考えられる。そこで、これまで〔共通事項〕を手がかりとし、「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」と結びつけて聴く活動を多く取り入れてきた。児童は、少しずつ音楽的な言葉に慣れてきたものの、自分の言葉で表現したり、仲間と音楽のよさを共有したりするまでには至っておらず、音楽のよさを味わって聴くことには、まだまだ課題が残っている。

以上のことから、児童が主体的に音楽にかかわり、「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」と結び付けながら、感じ取ったことを仲間と伝え合う活動を充実させていくことにより、音楽のよさを味わって聴く児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

仮説1 鑑賞の場を意図的に設定し、特徴のある曲を聴かせれば、児童が情景や様子などをイメージしやすくなり、音楽のよさを自分の言葉で表現することができるであろう。

仮説2 音楽から聴き取ったり、感じ取ったりしたことを伝え合う活動を取り入れれば、その楽曲のよさを共有しながら理解し、音楽を味わって聴くことができるであろう。

3. 研究内容

6学年における以下の2実践を通して、仮説1・2の検証を行う。

(1) 言語化するための基礎を養う常時活動や「オーケストラの魅力を味わおう」の授業実践

(2) 「世界の音楽に親しもう」の授業実践

4. 結 論

○児童が情景や様子などをイメージしやすい曲を聴かせたり、ペア、グループで伝え合う活動を積み重ねたことにより、音楽から聴き取ったり感じ取ったりしたことを言葉などで表現することができるようになり、児童同士のやりとりの中で根拠を確かなものにしていく姿が見られた。

○感じ取ったことを伝え合う活動で多様な聴き方・感じ方に触れた上で、もう一度個に戻って自分の中でのその音楽の価値を再確認することにより、音楽のよさを深く味わうことにつながっていくのではないかと考える。

1. 研究主題

音楽のよさを味わって聴く児童の育成

～感じ取ったことを仲間と伝え合う活動を通して～

2. 主題設定の理由

音楽を聴いて感じるイメージはそれぞれであり、音楽鑑賞はその意味で個人的な行為と言える。しかし、学校音楽は、共に音楽表現を追求したり、音楽を聴いてよさを共に見出したりすることに価値があると考え。仲間のたくさんの思いや感じ方に触れることにより、自分の聴き方を見直したり新たな聴き方に気付いたりすることができる。感じ取ったことを言葉などで伝え合う活動は、自分にはなかった聴き方や感じ方を知り、仲間と共有し、深めていく中で、自分のイメージを広げていくことにつながると考える。

現行の学習指導要領では、表現及び鑑賞のすべての活動の支えとなる指導内容が〔共通事項〕として位置づけられている。鑑賞の活動においては、〔共通事項〕である「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」をよりどころとして聴くことで、児童がそのよさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようにと示された。また、音楽を聴いて「感じ取ったことを言葉で表すなどの活動」を通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する能力の育成が求められている。

平成25年の千葉県小・中学校音楽教育研究大会安房大会では、研究主題に『音楽や仲間と深くかかわり、音楽を豊かに表現することのできる、音楽を楽しむ力をもった児童生徒の育成』を掲げ、地域で学習指導に力を入れてきた。本研究においても、音楽や仲間と深くかかわりながら音楽のよさを味わうという、音楽を楽しむ力の育成を目指している。

本学級6年生は、音楽を好み、個人でも好きな音楽をよく聴いている児童が多い。しかし、鑑賞の授業においては、主体的に聴く活動ができていないことが多い。その要因として、児童の多くが楽器の音色を聴き分けたり、音楽的な特徴を言葉で表現したりすることを苦手としていることが考えられる。

そこで、これまで〔共通事項〕を手がかりとし、「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」と結びつけて聴く活動を多く取り入れてきた。児童は、少しずつ音楽的な言葉に慣れてきたものの、自分の言葉で表現したり、仲間と音楽のよさを共有したりするまでには至らなかった。つまり、音楽のよさを味わって聴くことには、まだまだ課題が残っている。

以上のことから、児童が主体的に音楽にかかわり、「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」と結び付けながら、感じ取ったことを仲間と伝え合う活動を充実させていくことにより、音楽のよさを味わって聴く児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

3. 研究目標

音楽を聴いて聴き取ったことや感じ取ったことを仲間と伝え合う活動を充実させることにより、児童が音楽のよさを主体的に聴き味わうことのできる鑑賞指導の方法を明らかにする。

4. 研究仮説

仮説1 ミニ鑑賞の場を意図的に設定し、特徴のある曲を聴かせれば、児童が情景や様子などをイメージしやすくなり、音楽のよさを自分の言葉で表現することができるであろう。

本学級の児童は、楽器の音色を聴き分けたり、音楽的な特徴とイメージを結びつけたりする活動を多く経験してきていない。そこで、音楽的な特徴のある曲に多く触れさせ、イメージを言語化させていくことが必要であると考え。感じたことを言葉で表し、仲間と伝え合う活動を充実させていくことにより、音楽のよさを味わって聴くことができるであろう。

【手立て1：音楽的な特徴を聴き取らせるためのミニ鑑賞や楽器クイズ】

楽曲の音楽的な特徴に気づき、そのよさを味わわせるために、音楽の授業の始めや短学活の5分間を使い、ミニ鑑賞や楽器の音色あてクイズを継続して行う。

ミニ鑑賞では、「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」などの聴く視点を焦点化する。聴き取ったことと感じ取ったことをペアで伝え合う活動を通して、音楽を言葉で表す経験を増やしていく。

また、実態調査（資料①）により、楽器の音色の違いについて感じ取ることでできた児童が多くはなかったことから、楽器についてDVD等で確認したり、楽器の音色あてクイズを継続して行ったりし、それぞれの楽器の音色について言葉で表させ、親しませるようにする。

【手立て2：情景や様子などをイメージしやすい曲の教材選択】

情景や様子などをイメージしやすい楽曲を選曲する。その際、曲名をふせて聴かせ、曲名をつける活動を行う。イメージしたものから曲名を考え、なぜその曲名にしたのかという根拠を「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」から説明させるようにする。音からイメージすることは児童それぞれであり、つけた曲名に関するそれぞれの考えを伝え合うことにより、自分にはなかった新たな聴き方を知ったり、気づかなかった音楽のよさに気づいたりすることができる。それが、感じたことを表現する言葉をさらに増やし、音楽のよさを味わって聴くことにつながると考える。（仮説2にも関連）

【手立て3：感じたことを表すための支援】

本学級の児童は、「音楽を特徴づけている要素を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述する」ことに課題がある。そのため、音楽に関する語彙を増やしていくことの必要性を感じる。そこで、児童一人ひとりが感じたことを表現できるように、「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」を表す言葉を常に掲示し、音楽と結び付けて聴くことができるようにする。また、「音楽の玉手箱」（音楽の感じを表す語彙の例）を示し、言語表現が苦手な児童も、記述できるよう支援する。

仮説2 音楽から聴き取ったり、感じ取ったりしたことを伝え合う活動を取り入れれば、その楽曲のよさを共有しながら理解し、音楽を味わって聴くことができるであろう。

聴く視点をもとに、自分の感性を働かせて聴くことが大切である。そこで、感じたことを仲間と共有し合い、楽曲への理解を深めていく活動を取り入れる。自分とは異なった感じ方を知ることにより、さらにイメージを広げていくことにつながるだろう。また、互いに伝え合い、発信していく活動を価値づけることにより、仲間と共に音楽のよさを味わい、理解を深めていくことができると思う。

【手立て4：目的意識や興味をもってとりくむことのできる学習過程】

仲間と共に創りあげる学習活動をゴールに設定することで、目的意識をもって伝え合い、共に音楽のよさを味わっていけると考える。

「世界の音楽に親しもう」では、世界の音楽に親しむことをめあてとし、「音楽ツアーガイドになって、世界の音楽を校内放送で紹介しよう」というゴールを示し、そのための学習の流れを確認する。始めに、教師がゴールのモデル（日本の音楽ガイド）を示し、そのポイントを仲間と共に音で確かめていく活動を行う。世界の音楽ガイドをするためにどのように聴いていくのか、という学習の見通しが持てるようにする。モデルには、児童に聴き取らせたい音楽的な特徴を示し、聴く視点を焦点化できるようにしておく。次に、児童がガイドする世界の音楽を選ばせる。そして、選んだ音楽が同じ者同士のグループでその音楽を聴き、感じたことを伝え合いながらガイド内容をまとめていく。自分が選んだお気に入りの音楽を、仲間と共に聴いていくことにより、自信をもって音楽とかわかっていくことができると思う。

【手立て5：資料提示の工夫】

学習活動のゴールに向け、DVDやCDなど足がかりとなる資料を提示し、気づいたことをグループごとに確認する場を設定する。グループ内で、感じたことを繰り返し音楽を聴いて確認する場を保障することにより、音楽的な伝え合いが生まれ、自信をもって言葉で表現することにつながると思う。また、楽器の実物を見せ、児童の興味関心を高める。

「世界の音楽に親しもう」では、その国の様子や使われている楽器の紹介や演奏の映像などの資料コーナーを設置し、必要に応じて活用できるようにする。音楽や仲間に分人からかわっていけるような場を設定し、自分たちで音楽ガイドを創っていくために感じたことを伝え合う活動の中で、音楽のよさを味わっていく姿が期待できると考える。

【手立て6：伝え合う形態の工夫】

音楽を聴いて聴き取ったり感じ取ったりしたことを仲間と伝え合い、その音楽のよさを共有してくために、ペア、グループ、全体、全校での交流の場を設定する。

ペアは、その音楽を初めて聴いたときに感じたことを自分の言葉で表現する場とする。一対一で普段の会話のように伝え合える場となるため、人前で表現することを苦手とする児童でも、感じ取ったことを自由に言える雰囲気を作り出すことができると思う。

グループ活動は、音楽を共に聴きながらそのよさを見いだししていく場として設定する。グル

ープの人数は、それぞれの考えを交流でき、全員が発言できることを考え、3～4人とする。いつも同じメンバーではなく、いろいろな組み合わせでグループ活動をする場を設けることで、より多くの感じ方に触れさせ、自分のイメージを広げることにつなげていきたい。「世界の音楽に親しもう」では、雅楽「越天楽」の教師ガイドの内容を音で確かめる活動に生活班を用い、世界の音楽のガイドを創っていく活動では、その音楽を選んだ者同士でグループを構成する。

全体では、さらに多様な考えを交流したり、ペアやグループで伝え合ったことを発表したりする場として設定する。「世界の音楽に親しもう」では、グループごとに聴いたそれぞれの音楽のよさを伝え合い、音楽を聴いて確かめることにより、自分では気づかなかった世界の音楽のよさを感じられるようにする。

また、「世界の音楽に親しもう」では、世界の音楽のよさを校内放送で紹介する活動を設定する。相手意識を持ちながらガイドをまとめ、全校に向けて発信することにより、それぞれの音楽のよさをさらに多くの仲間と共有できると考える。

5. 研究実践

(1) 言語化するための基礎を養う常時活動や「オーケストラの魅力を味わおう」の授業実践

仮説1【手立て1：音楽の特徴を聴き取らせるためのミニ鑑賞や楽器クイズ】

授業の始めの5分間や短学活等のすきまの時間を使い、ミニ鑑賞や楽器の音色あてクイズを継続して行った。

ミニ鑑賞では、5年生までに既習した教科書教材を中心に、聴く視点を焦点化して鑑賞した(資料②)。特に「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」を焦点化し、それが表されている曲の一部分、そして全曲を通して聴いた。さらに、原曲だけではなく、異なる楽器での演奏を聴き、音色によるイメージの違いを感じたり、共通点を探したりしていった。続いて、それぞれの曲で意識して聴いた「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」からもたらされる感じをペアで伝え合う活動を行った。これらの活動を継続することにより、曲を聴いて感じたことを言葉で表すことが、少しずつできるようになった。

また、実態調査において、楽器の音色の違いについて感じ取ることのできた児童が多くはなかったことから、「オーケストラの魅力を味わおう」の学習に関連させ、オーケストラで使われる楽器の音色について知る活動を行った。楽器紹介のDVD(資料③)を視聴し、それぞれの楽器の演奏の仕方や音色を聴き取ったり、「楽器カード」(資料④)を使い、楽器の音色あてクイズを行ったりした。その際、どうしてその楽器だと思ったのか、音色について言葉で表現させた。互いに共有し合う活動を継続して行う中で、楽器の音色の違いを感じ取り、その特徴を言葉で表すことができるようになった。

仮説1【手立て2：情景や様子などをイメージしやすい曲の教材選択】

「オーケストラの魅力を味わおう」(資料⑤ 指導案)では、『木星』と共に『火星』を教材として選曲した。『火星』は「戦争をもたらすもの」という副題がつけられており、児童がイメージを膨らませやすい曲である。始めに、曲名をふせて聴かせ、自由に曲名を考えさせた。そして、どうしてその曲名にしたのか、「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」と結び付

けて説明させ、伝え合う活動の時間を確保した。強弱や速さの変化、楽器の音色や音の重なりに着目し、ほとんどの児童が自分の考えた曲名の根拠を言葉に表し伝えることができた（資料⑥）。仲間の説明を聴き、「私も同じ！」「なるほど。確かにそう聴こえる！」「理由が似ているのに、つけた曲名が違って面白い！」などの感想が聞かれ、曲の雰囲気と言語化することにつながることができた。

仮説1【手立て3：感じたことを表すための支援 －「音楽の玉手箱」の提示－】

「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」を表す言葉を「音楽のひみつ」として常時掲示しておき、楽曲を聴くときの視点として意識できるようにした。また、音楽を聴いて想像したり感じ取ったりしたことを表す語彙の例「音楽の玉手箱（音楽の感じを表す言葉）」を掲示すると同時に、一人ひとりにも配布し、いつでも使えるようにした（資料⑦）。

『火星』を聴いて、感じ取った曲想を根拠に曲名を考える活動では、感じたことを自分の言葉で表すことのできる児童が多かったが、ふさわしい言葉が思い浮かばない児童は「音楽の玉手箱」の中から言葉を探していた。また、「木星」の紹介文を書く活動では、「音楽の玉手箱」を手元に置き、参考にしながらよりよい言葉を探そうとする姿が多く見られた。

（2）「世界の音楽に親しもう」の授業実践

仮説2【手立て4：目的意識や興味をもってとりくむことのできる学習過程】

本題材では、世界の音楽に親しむことをめあてとし、「音楽ツアーガイドになって、世界の音楽について校内放送で全校に紹介しよう」という活動をゴールに設定し、以下のような過程で学習を進めた（資料⑧ 指導案）。

	学習過程（5時間+課外）	指導のポイント	指導後の児童の感想 や自己評価
1	○学習の見通しを持つ ・ゴールの活動を知る。 ・教師による「日本の音楽ガイド（雅楽「越天楽」）」を聴く。 ・ガイドをどのようにつくっていくか、学習の流れを知る。 （資料⑨）	<u>活動のゴールや教師モデルの提示</u> まず、世界の音楽マップを示し、「気に入った世界の音楽について音楽ガイドをしよう」と活動のゴールを提示。その際、放送委員会の企画募集と関連させ、全校に校内放送で紹介することを提案した。←目的意識・相手意識 「どうやってガイドするの？」という不安な声がすぐに聞かれた。そこで、教師による「日本の音楽ガイド」をモデルとして紹介。その後、どのようにしてガイドをつくっていくのか、学習の流れを確認した。 ←学習の見通し	私は放送委員なので、卒業前に6年生が下級生に音楽でメッセージを送りたいので、早くガイドを完成させ放送したくなった。 （自己評価） 「これからの学習の見通しがもてた」 ◎ 73% ○ 27%

2	○雅楽「越天楽」を聴く ・グループで教師による「日本の音楽ガイド」の内容を音で確かめたり、修正したりする。 ・雅楽「越天楽」のよさについて全体で交流する。	<u>教師モデルを音で確かめる</u> 教師による「日本の音楽ガイド」の内容が、「越天楽」の紹介としてふさわしいか、グループごとにCDを何回も聴いたり、資料コーナーにある演奏シーンの映像や、楽器についての紹介（写真や名前）の資料等を活用したりしながら確かめていった。その後の全体交流により、ガイドのつくり方を確認した（資料⑩）。 ←学習の見通し	初めは、ツアーガイドなんて難しそうと思ったけど、先生のモデルを見て、それを音楽で確かめたら意外にできそうだった。 〈自己評価〉 「ガイドモデルの内容を確かめることができた」 ◎ 70% ○ 30%
3	○世界音楽ツアーに行く ・それぞれの国のコーナーで音楽を聴き、紹介したいお気に入りの音楽を決める。	<u>自ら音楽にかかわる場の工夫</u> 3つの教室と廊下を使って8つの音楽を聴くコーナーを設置。30分間自由に移動しそれぞれの音楽を聴かせた。 興味のある音楽から聴く、気になる音楽を繰り返し聴く、リズムを刻みながら聴く、友達とその音楽について話しながら聴く、気に入った音楽を見つけ友達を呼んで一緒に聴く…など様々な聴き方が見られた。←主体的な鑑賞活動	本当にツアーに行っているみたいで楽しかった。 〈自己評価〉 「お気に入りの音楽を見つけることができた」 ◎ 90% ○ 10%
4	○お気に入りの音楽を聴き、ガイド内容をまとめる ・お気に入りの音楽が同じ者同士のグループで聴く。 ・音楽を聴いたり資料コーナーを活用したりして、グループでガイド内容を考える。	<u>教師モデルの活用</u> 「日本の音楽ガイド」で確かめた聴き方（楽器の音色、速さ、旋律、背景等に注目し、映像、資料を参考にした聴き方）で聴き、モデルを参考にまとめさせるようにした。 ←聴く視点の焦点化	音色やリズムに着目して聴いた。 一つの楽器で演奏されていたため、雅楽のような音の重なりはなかったけど、音色に着目して聴けた。 日本の音楽とはまた違った曲想を感じられた。 〈自己評価〉 「楽器の音色や音楽の雰囲気を感じ取ることができた」 ◎ 100%
5	・全体でグループごとの音楽ガイドを発表し合い、音楽を聴いて確かめる。		

○校内放送で音楽ツアーガイドをする（課外） ・グループごとに、お気に入りの世界の音楽を校内放送で全校に紹介する。	 校内放送での音楽ガイド	
---	---	--

仮説2【手立て5：音楽体験を共有し合う場の工夫】

お気に入りの音楽を聴いてガイドの内容をまとめる活動では、グループごとに活動できる場を設けた。何度もCDを聴いたり、演奏場面の映像や実物の楽器を資料コーナーで確認したりし、楽器の音色についてその素材やつくりから感じ取ることができた。さらに、ガイド内容をまとめるために、自ら音やその音楽についての資料にかかわり、感じたことを伝え合う姿が見られた。しかし、資料の内容を写したり、映像を見たりすることに時間をとられてしまい、実際に音を手がかりにした活動が少ないグループもあった。



仮説2【手立て6：伝え合う形態の工夫】

雅楽「越天楽」の教師モデル「日本の音楽ガイド」の内容を音で確かめる活動を、4人グループ（生活班）で行った。他教科の授業の中でも話し合いを重ねているメンバーであるので、自分の思いや考えを抵抗なく伝え合うことができていた。中には、自分の感じたことを言葉に表せず伝えられなかった児童もいたが、仲間の考えを聴いて、うなずいたり「なるほど!」とつぶやいたりする姿がみられた。

ガイドの内容をまとめる活動では、その音楽を選んだ者同士で3～5人のグループで行った。偶然集まったメンバーのため、思いを伝えるのが得意な子が集まったグループ、逆に普段自ら思いを伝えることを苦手とする子が集まったグループなどがあり、進み具合もさまざまであった。しかし、とりくみ方の差異はあったものの、自分が気に入った音楽であるので、一人ひとり思いはもっておりそれを伝えることができていた。そして、共に音楽を聴きながら、そのよさ表す言葉を相談しながら考えようとする姿が見られた。特に、普段仲間関係で心配のあるグループでは、妥協することなく相手に自分の思いを何とか伝え、わかってもらおうと活発な伝え合いをすることができた。しかし、全体的にまだまだ受動的で、仲間の発言をそのまま受け入れ、仲間のガイド文を書き写す児童もいた。



最後に、全体に向けてグループごとに“音楽ツアーガイド”をした。他のグループが紹介する世界の音楽のガイド内容を、あらためて全体で聴いて確かめることにより、自分がツアーをした時には気づかなかったそれぞれの音楽のよさも感じる事ができた。



【児童の感想】

- たくさん友達に意見を言えてよかった。
- 友達が言ったことを想像して聴いてみたら、その通りだった。
- グループで話し合っつてつくる事ができた。
- ガイド内容をまとめるのは大変だった。理由は、聴く相手には耳でしか聴こえないので、そのよさを言葉で表すのは大変だったから。

仮説1【手立て3：感じたことを表すための支援】

お気に入りの世界の音楽を見つける活動では、国名と音楽や楽器の名前がわかる世界地図入りのワークシートを用意した。聴き取った音色や感じ取った音楽の雰囲気やメロディをメモできるようにし、お気に入り度を◎、○、△で表せるようにした。簡単なメモ程度の欄であったので、それぞれの音楽の“ここがポイント！”という特徴を、短い言葉で表している児童が多かった。この場面では、「音楽の玉手箱」を使う児童はほとんどおらず、音楽的な特徴や自分が感じたイメージをそのまま言葉にする児童が多かった（資料⑪）。

ガイド内容をまとめる活動では、モデルと同じ紹介パターンを示しておき、聴き取ったり感じ取ったりしたおすすめポイントの部分を自分たちで言語化できるようワークシートを用意した。教師モデル「日本の音楽ガイド」と「音楽の玉手箱」を傍らに置き、参考にしながら速さ、旋律、楽器の音色、雰囲気を視点を聴いていくグループが多かった。教師モデルに自分たちが紹介する音楽を表す言葉をあてはめていくグループ、自分たちの耳に聴こえてくる音や音楽をどんな言葉で表すと相手に伝わるのか、どんな言葉がふさわしいか話し合っているグループ、「音楽の玉手箱」の中にぴったりの言葉を探しながらまとめるグループなど、感じたことを言葉で表す活動にじっくりととりくむ姿が見られた。（資料⑫）ただ、ガイドとしてまとめていくため、言葉のつなぎ方、紹介文の構成などで悩むグループもあった。



【児童の感想】

- 音色やリズムに着目して聴いた。
- 日本の音楽とはまた違った曲想を感じられた。
- 「音楽の玉手箱」にぴったりの言葉があつてよかった。
- 感じたことに合った言葉を入れるのが難しかった。
- どの言葉で表そうかをすごく悩んでしまい、時間がかかってしまった。

6. 児童の変容

国立教育政策研究所 平成20年度「特定の課題に関する調査 小学校音楽 調査ⅡB」をもとに、鑑賞の能力における児童の実態を事前・事後で調査した。(1回目の実施後に模範解答は知らせていないが、事前・事後ともに同一問題を使用したため、完全な比較とは言えない。)

結果は以下のとおりである。

<問題1 楽曲を形づくっている要素と曲想とのかかわり合い>

	内容	学習指導要領との関連	正答率	
			11/4	3/14
①	音楽を聴いて、曲想を醸し出しているリズムの変化を聴き取る。	B(1)イ	94.7%	100%
②	曲想を醸し出している楽器の音色(ア)、強弱(イ)、速度(ウ)のそれぞれの変化として適切であるか否かを選択する。	B(1)イ ウ	ア 68.4% イ 100% ウ 84.2%	100% 100% 94.7%
③	特定の旋律が、楽曲の各部に現れているか否かを選択する。	B(1)イ	89.4%	100%
④	楽曲の強弱の変化によって、華やかな行列や行進のどのような様子が表されているのかについて記述し、紹介文を完成させる。	B(1)ア イ	42.1%	78.9%

②(ア)の「楽器の音色」については、約68%だった正答率が100%となった。これは、楽器の音色に焦点をあてて聴き取る活動を行ったことの成果と考えられる。また、オーケストラの楽器に親しむために継続的に行った「楽器の音色あてクイズ」も効果的であったと考える。

④の「強弱の変化が生み出す曲想について、言葉で述べる」問題については、約42%から79%に正答率が上がった。11月には曲想のみを記述する児童が多かったが、3月には「音楽のひみつ」とかかわらせて記述した児童が増えた。残り約4人のうち2人は一部の強弱変化の記述、もう2人は曲想のみの記述にとどまった。ワークシートの工夫や、「どうしてそう感じたの？」などといった伝え合いの中で根拠を確かなものにしていったことの成果であると考えられる。

<問題2 楽曲の構成と曲想とのかかわり合い>

	内容	学習指導要領との関連	正答率	
			11/4	3/14
①	楽曲の構成と強弱の変化に着目して音楽を聴き、強弱がどのように変化したのかを記述する。	B(1)イ	94.7%	100%
②	音楽を聴き、楽器の音色と音の重なり、拍節感の特徴についての記述が適しているか否かを選択する。	B(1)イ ウ	94.7%	100%
③	作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述する。	B(1)ア イ	5.3%	15.8%

③「楽曲全体の構成について、要素の変化を表す語句を用いて想像したことなどを記述する」問題では、5.3%から15.8%になったが、正答率は依然として低い。要素の変化のみ記述した児童がほとんどで、想像したことや感じ取ったことを結び付けた記述できたのは3名であった。

仲間と伝え合う活動により、要素について理解したり、言葉で表すことには慣れてきたが、楽曲全体の曲想を味わって聴いたり、それを自分の言葉で豊かに表したりすることには、まだまだ課題がある。

7. 研究のまとめ（成果と課題）

仮説1について

- 聴く視点を焦点化したミニ鑑賞を継続的行ったことで、音楽的な特徴を意識して聴くことができるようになった。
- 児童がイメージを膨らませやすい曲を教材として選択したことにより、イメージしたことの根拠を「音楽を特徴づけている要素」や「音楽の仕組み」と結び付けて考えていくことができ、ほとんどの児童が自分の考えた曲名の根拠を明確にしながら言葉で伝えることができた。
- 楽器紹介の映像の視聴や楽器の音色あてクイズを行ったことにより、楽器の音色や旋律などに注意深く耳を傾け聴き取ろうとする姿が見られ、事後調査においても楽器の音色についての問題の正答率が100%となった。
- 自分の思いを表現することが苦手な児童は、「音楽の玉手箱」にある言葉を活用しながら伝えようとする姿が見られた。また、音楽的な特徴を表す言葉を用いながら自分の感じたことを表現する児童が増えた。

仮説2について

- 始めに活動のゴールを示し、意欲をもって活動にとりくめるようにした。さらに、ゴールに向かうまでの学習過程を細かく確認しながらとりくんだことにより、目的意識・相手意識を持ち、仲間と感じたことを伝え合う活動を活発に行うことができた。
- 教師モデルの提示は、児童に学習の見通しを持たせるとともに、「それを参考にすればできる」という安心感の中で活動を進めていくことにつながった。どのグループも悩みながらも、「世界の音楽ガイド」を完成させ、自信をもって校内放送をすることができた。
- 「音楽のひみつ」と曲想を関連させて記述できるワークシートを工夫したり、伝え合う活動を積み重ねたりしたことにより、聴き取ったり感じ取ったりしたことを言葉などで表現することに慣れ、児童同士のやりとりの中で根拠を確かなものにしていく姿が見られた。
- 音や音楽の特徴をふさわしい言葉で表現していこうとする過程では、仲間と音楽を聴いて確かめたり、楽器のつくりなどを調べたりしながらぴったりの言葉を探す、生み出すといった思考が働いていた。仲間とともにいったからこそ、みんなが納得する表現にこだわることができたのではないかと考える。言葉にこだわり、音にこだわっている姿であると感じた。
- 自ら音楽を聴き進めていく場を設定したことにより、受動的ではなく自分で選んだり動いたりといった能動的な活動を行うことができた。
- ▲教師モデルの提示は、児童が主体的にガイドをつくっていく点では有効であったが、文字通りそれが児童のモデルとなるので、十分な教材研究による内容の吟味が必要である。
- ▲仲間と共有・共感しながら一つにまとめたガイドは、あくまでも仲間とつくったものである。他のグループの考えと交流した上で、もう一度個に戻ってその価値を確認することが必要である。

【主な参考文献】

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」平成20年
- 2) 文部科学省国立教育政策研究所「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料「小学校音楽」」平成23年

資料

- ① 鑑賞の能力における児童の実態調査 P 1
- ② ミニ鑑賞曲 P 2
- ③ 楽器紹介DVD P 2
- ④ 楽器カード P 2
- ⑤ 「オーケストラの魅力を味わおう」学習指導案 . . . P 3 ～ 5
- ⑥ 児童が考えた『火星』の曲名とその根拠 P 6
- ⑦ 「音楽のひみつ」「音楽の玉手箱」の掲示物 P 6
- ⑧ 「世界の音楽に親しもう」学習指導案 P 7 ～ 10
- ⑨ 「世界の音楽に親しもう」学習の見通し P 11
- ⑩ 教師による「日本の音楽ガイド」 P 11
- ⑪ “世界音楽ツアー”に行こう ワークシート P 12
- ⑫ 児童作成の世界の音楽ガイド P 13
- ⑬ 抽出児童の変容 P 14

① 鑑賞の能力における児童の実態調査（11月4日実施）

国立教育政策研究所 平成20年度「特定の課題に関する調査 小学校音楽 調査ⅡB」

＜問題1 楽曲を形づくっている要素と曲想とのかかわり合い＞

問題1は、標題をもつ管弦楽曲を聴き、標題からイメージすることを手がかりにしながら、曲想とかかわらせて音楽を特徴づけている要素の変化を聴き取っているか、特定の旋律を聴き取っているか、楽曲の強弱の変化による曲想を感じ取っているかを把握するものである。

	内容	学習指導要領との関連	正答率
①	音楽を聴いて、曲想を醸し出しているリズムの変化を聴き取る。	B(1)イ	94.7%
②	曲想を醸し出している楽器の音色(ア)、強弱(イ)、速度(ウ)のそれぞれの変化として適切であるか否かを選択する。	B(1)ア イ ウ	68.4% 100% 84.2%
③	特定の旋律が、楽曲の各部に現れているか否かを選択する。	B(1)イ	89.4%
④	楽曲の強弱の変化によって、華やかな行列や行進のどのような様子が表されているのかについて記述し、紹介文を完成させる。	B(1)ア イ	42.1%

＜問題2 楽曲の構成と曲想とのかかわり合い＞

問題2では、拍節感や調性を持たない音楽を聴き、強弱の変化、楽器の音色と音の重なり、拍節感のないリズムを聴き取っているか、楽曲の構成について、音楽を特徴付けている要素の変化とかかわらせて聴き、曲想を感じ取っているかを把握する。

	内容	学習指導要領との関連	正答率
①	楽曲の構成と強弱の変化に着目して音楽を聴き、強弱がどのように変化したのかを記述する。	B(1)イ	94.7%
②	音楽を聴き、楽器の音色と音の重なり、拍節感の特徴についての記述が適しているか否かを選択する。	B(1)イ ウ	94.7%
③	作品全体の流れについて、音楽を特徴付けている要素の変化を表す語句を用いて、想像したことや感じ取ったことを記述する。	B(1)ア イ	5.3%

＜考察＞

以上の調査結果から、音楽を特徴付けている要素の「強弱の変化」「リズムの変化」については、ほとんどの児童が感じ取ることができているが、「楽器の音色」の違いを感じ取ることのできた児童は7割弱にとどまった。普段の授業の中で、楽器固有の音色を聴き取ったり、楽器と楽器の名前が結びつけたりできる児童が少ないことにもつながる。また、「リズム」が細かく刻まれると「速度」が速くなったと感じている児童がいることもわかった。そして、楽曲の一部については曲想を記述することができるが、楽曲が移り変わっていく中で音楽を特徴付けている要素の変化が生み出している曲想を記述すること、楽曲全体の流れについてその構成をとらえ、イメージ豊かに膨らませて想像したことや感じ取ったりし要素がどのように働いているのかをとらえ、楽曲のよさや面白さなどを感じ取ることができるような指導の工夫が必要である。また、想像したことや感じ取ったことを言葉で表す活動も取り入れていく必要がある。

② ミニ鑑賞

曲名	作曲者	聴く視点〔共通事項〕
トルコ行進曲 トルコ行進曲（ピアノソナタ版）	ベートーヴェン モーツァルト	リズム 強弱 2 拍子 リズム
組曲「くるみわり人形」から 行進曲	チャイコフスキー	反復 問いと答え
「アルルの女」第1組曲から かね	ビゼー	旋律 音の重なり
「アルルの女」第2組曲から ファランドール	ビゼー	旋律 音の重なり 反復
組曲「動物の謝肉祭」から 白鳥 組曲「動物の謝肉祭」から 白鳥 （バイオリン演奏版） 組曲「動物の謝肉祭」から 象	サン＝サーンス	旋律 弦楽器の音色 3拍子
「パルギュント」第1組曲から 山の魔王の宮殿にて	グリーグ	速度 強弱 反復
「ガイーヌ」より 剣の舞	ハチャトゥリヤン	旋律 反復 合いの手

③ 楽器紹介 DVD

「楽器紹介DVD ～京都 Special～」

企画：京都市教育委員会 鑑賞領域研究グループ

監修：田久保裕一 協力：京都市交響楽団

京都市交響楽団員によるオーケストラの楽器紹介ビデオ。

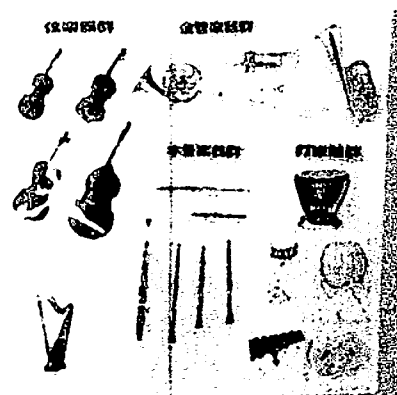
田久保保裕一先生の監修，進行による丁寧な解説がなされている。

授業で扱いやすく30分で構成されている。

④ 楽器カード

「CD 付き 楽器カード」 くもん出版

オーケストラで使われる楽器 25 種と，和楽器 6 種の，計 31 種類の楽器を収録。
楽器の音色と，代表曲の演奏が聞ける CD 付き。



⑤ 「オーケストラの魅力を味わおう」学習指導案

第6学年 音楽科学習指導案

南房総市立富山小学校 6年A組

指導者 佐藤 純子

1. 題材名 オーケストラの魅力を味わおう

鑑賞教材名 管弦楽曲『惑星』より「火星」「木星」ホルスト作曲

2. 題材について

【学習指導要領との関連】

B鑑賞

ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

【共通事項】(1)

ア (ア) 音楽を特徴づけている要素 音色、速度、旋律、強弱、音の重なり、拍の流れ

(イ) 音楽の仕組み 反復、変化

(1) 題材観

本題材は、中学年から金管楽器、木管楽器、弦楽器、打楽器のそれぞれの楽器の音色や特徴を学んできた児童が、それらが重なり合うオーケストラの豊かな響きを味わって聴くことをねらいとしている。

オーケストラの響きを味わえるようにするため、一つ一つの独奏楽器の音色の美しさを聴き分けることができ、曲想の変化に富んでいる大管弦楽曲『惑星』の中から2つの楽曲を教材として選んでいる。楽器固有の音色に耳を傾けながら、それらが重なり合うオーケストラの響きの美しさや曲想の変化を感じ取り、音楽を形づくっている要素との結びつきを理解して、楽曲全体を味わいながら聴く活動を重視したい。また、楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表したり、友達と伝え合ったりする活動を取り入れ、楽曲の特徴やよさを理解させ、感じ方を広げていきたい。

(2) 児童の実態 (6年A組 男子9名 女子 11名 計20名 うち19名調査)

音楽 (特に鑑賞活動) に関する意識調査の結果は以下の通りである。

1. あなたは音楽が好きですか?	好き 15名	どちらともいえない 4名	嫌い 0名
2. あなたは、音楽を聴くことが好きですか?	好き 19名		
3. あなたが普段聴いている音楽は、どんな音楽ですか? (複数回答可)	ポピュラー音楽 13名 ゲーム音楽 7名 CM音楽 6名 ジャズ 2名 日本の音楽 (洋・三線・民謡など) 2名 ロック 1名 意識していない 1名 クラシック・民謡・演歌・世界民族音楽 (フラメンコ・ハワイアン・ラテン音楽など) それぞれ0名		
4. あなたは普段、どんな機器で音楽を聴いていますか? (複数回答可)	インターネット (YouTubeなど) 14名 テレビ・DVD 11名 カーステレオ 10名 携帯電話(スマホ) 9名 ウォークマン 5名 ipod や iPhone 4名 CDラジカセ 3名		

全体の約8割の児童が音楽が好きと回答しており、全員が音楽を聴くことを好んでいる。

日常聴いている音楽については、約7割の児童がポピュラー音楽を聴いており、約4割がゲーム音楽、約3割がCMの音楽に親しんでいることが分かった。また、クラシックや民謡などを聴いている児童はいなかった。児童を取り巻く社会の中には多くの音楽が存在するが、調査結果からもわかるように、特定の音楽を楽しむ傾向があるといえる。これから児童が自分で様々な音楽に親しみ、生涯音楽の基礎を培っていくためにも、様々な音楽のよさや面白さを鑑賞学習を通して理解していく必要があると感じる。

音楽を聴いている音楽機器は、You Tube が約7割、カーステレオやスマホが約5割と多く、ウォークマン、ipod や iPhone などといった個人で音楽を聴くタイプのもので音楽を楽しむ傾向があることがわかった。コンサートホールでのオーケストラの臨場感ある演奏を体験している児童はおらず、音楽室でその体験ができるような環境の工夫が必要である。

また、鑑賞の能力における児童の実態を調査するために、国立教育政策研究所 平成20年度「特定の課題に関する調査 小学校音楽 調査ⅡB」の問題を実施した。(資料①参照)

(3) 指導観

○部分鑑賞→全体鑑賞

主題ごとに部分鑑賞したり、三部を聴き比べたりして、繰り返し鑑賞する中で児童が発見をしながら聴き深められるようにする。楽器の音色に注意深く耳を傾けながら、音色の特徴やそれらが重なり合うオーケストラの響きの美しさや曲想の変化を感じ取ったり、想像豊かに感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素と結びつけて聴き取ったりして、それをもとに楽曲全体の構成をとらえられるようにする。そして、全体鑑賞によってその構成を確かめ、楽曲のよさや面白さを味わえるようにする。

○聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけて考えられるワークシートの工夫

聴き取った音楽を形づくっている要素が、どのような曲想を生み出しているのか、想像したり感じ取ったりしたことを、イメージ豊かに言葉などで表すことができるようなワークシートを工夫する。言葉で表すことが苦手な児童が多いことから、旋律の流れを図形で表す活動も取り入れ、目に見える形にして音で確かめることで音楽の特徴を気づけるようにしていく。その際、音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みといった学習指導要領で示されている【共通事項】を「音楽のひみつ」として提示し、それを聴き取り、音楽が様々なひみつから成り立っていることを感じ取れるようにしていきたい。児童が感じ取ったことの根拠を聴き取ったことと結びつけて考えられるようなワークシートを工夫し、児童の思考が整理され、その楽曲のよさを表現したり伝え合ったりするための助けとなるようにする。

○音楽に関する「言葉の玉手箱」の掲示・提示

音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みを表す言葉を掲示し、「音楽のひみつ」を意識できるようにする。また、音楽を聴いて想像したり感じ取ったりしたことを表す言葉の例を提示し使えるようにし、言葉による表現が苦手な児童でも、楽曲のよさを表現できるようにする。

○友達同士で伝え合う活動

聴き取ったことや感じ取ったことを伝え合うことにより、感じ方の共有化を図る。それにより、友達を感じ方のよさや違いを認め合ったり、自分の感じ方を広げたり深めたりすることが期待できる。言葉で表すことが苦手な児童は、友達を感じ方を聴いて、それをもとに言葉で表すことも可能となる。

○映像の効果的な活用

CDと映像を併用する。CDでは、音に集中して聴くことによってイメージをふくらめていくとともに、映像を活用し目で確かめて聴くことにより、より豊かにそのよさを理解できるようにする。

(4) 教材について

＜管弦楽組曲『惑星』より「火星」～戦争をもたらすもの～＞

イギリスの作曲家グスタフ・ホルストの作品。第7曲からなる管弦楽組曲『惑星』の第1曲。この曲は、5拍子のリズムが独特の緊張感を生み出している。冒頭で、ティンパニや弦楽器が3連符を含んだリズムを演奏していくと、不吉なことを予感させるような低音の第1主題が、ファゴットとホルンによって提示される。それが徐々にffにまで高まると、力強く迫ってくるように第2主題が金管楽器によって提示される。そして、曲の中間部で第3主題がチューバとトランペットによって男壮に演奏される。これらの3つの主題が次々入り乱れることによって、激しい戦闘の様子を象徴的に示しているかのようである。児童がイメージを膨らませやすい曲である。

＜管弦楽組曲『惑星』より「木星」～快楽をもたらすもの～＞

この曲は、管弦楽組曲『惑星』の第4曲で、全7曲の中で最もスケールが大きく、通常のオーケストラ編成では4本のホルンもここでは6本に増強されるなど、壮大なオーケストレーションによる視覚的な音楽が展開されます。曲は大きく分けて3部形式で構成されている。第1部は、弦の小刻みな伴奏を背景に6本のホルンで奏される男壮で快活な第1主題、引き続き弦とホルンで奏されるリズムカルな第2主題、そして3拍子になり舞曲風の第3主題へと続く。第2部の第4主題は、平原綾香による「ジュビター」、CM曲への活用などを通して広く知られている整然とした雄大な旋律が奏でられる。第3部は、第1部の主題3つが中心となって転調が巧妙に繰り返され、最後はフォルテッシモによる力強いコードで曲が結ばれる。音色の異なる様々な楽器が重なり合うことで生まれるオーケストラの豊かな響きを味わって聴くことができる。

3. 題材の目標 (1) オーケストラの楽器と音色に親しみ、そのよさを感じ取って聴く。
(2) 曲想の移り変わりや音楽を形づくっている要素とのかかわり合いを理解し、想像したことや感じ取ったことを自分の言葉で表し、伝え合う。

4. 題材の評価基準

	音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
題材の評価基準	オーケストラの響きに興味・関心を持ち、楽器の響きや楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	① 楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の変化、音の重なりを聴き取り、それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、楽曲の構造を理解したり楽曲全体にわたる曲想を味わったりして聴いている。 ② 曲想とその変化の特徴、楽器の音色と旋律の反復や変化、拍子の変化や音の重なりなどのかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やオーケストラの響きのよさを理解して聴いている。

5. 全体指導計画

次	時	○主な学習内容	・学習活動	◇評価規準(方法)
第一次		＜ねらい＞「木星」の第4主題の旋律を演奏できるようにする。		
	1	○「木星」の第4主題を聴く。 ○主な旋律を演奏する。 ・階名唱する。 ・鍵盤ハーモニカ、リコーダーで演奏する。		◇関(行動の観察)
第二次		＜ねらい＞オーケストラの豊かな響きや曲想の変化を感じ取り、味わって聴く。		
	2	○「木星」の第4主題を演奏する。 ○「火星」を聴き、音楽のひみつ(リズム、音色)を感じ取る。 ・演奏している楽器や感じ取ったこと、イメージしたことを話し合う。(ペア→全体) ・5拍子の特徴的なリズムを部分聴取し、リズム打ちをする。 ・主題に着目して聴き、楽器の音色を聴き取り、主題の移り変わりを感じ取るとともに、オーケストラの楽器群を確認する。		◇鑑-①(行動の観察) (ワークシート) (発言の内容)
	3	○「木星」の第4主題を演奏する。 ○「火星」をイメージを広げて鑑賞し、そのよさを伝え合う。 ・DVDで鑑賞し、楽器の音色を確かめる。 ・音楽のひみつに着目し、イメージしたことをもとに曲名をつけ、考えを交流する。(グループ→全体) ・曲名を知り、CDで鑑賞する。		◇鑑-②(行動の観察) (ワークシート) (発言の内容)
	4	○「木星」の第4主題を演奏する。 ○「木星」を聴き、曲想の変化(旋律・拍子・速度)を感じ取る。 ・演奏している楽器や感じ取ったこと、イメージしたことを話し合う。(ペア→全体) ・曲想が大きく変わったところを聴き取り、楽曲全体が3部構成で4つの主題がでてくことに気付く。 ・第1部の3つの主題、第2部の第4主題の曲想の変化を「音楽のひみつ」とかかわらせて感じ取り、考えを交流する。 (グループ→全体) ・第2部までをCDで鑑賞する。		◇鑑-①(行動の観察) (ワークシート) (発言の内容)
	5	○「木星」の第4主題を演奏する。 ○「木星」の全体を味わって聴く。 ・第3部の曲想について(第1部の主題の繰り返しとその音色の変化など)を感じ取る。 ・DVDで鑑賞し、楽曲全体について聴き取ったことや感じ取ったりイメージしたりしたことを紹介文に表し、友だちと伝え合う。 (グループ→全体)		◇鑑-②(行動の観察) (ワークシート) (発言の内容)

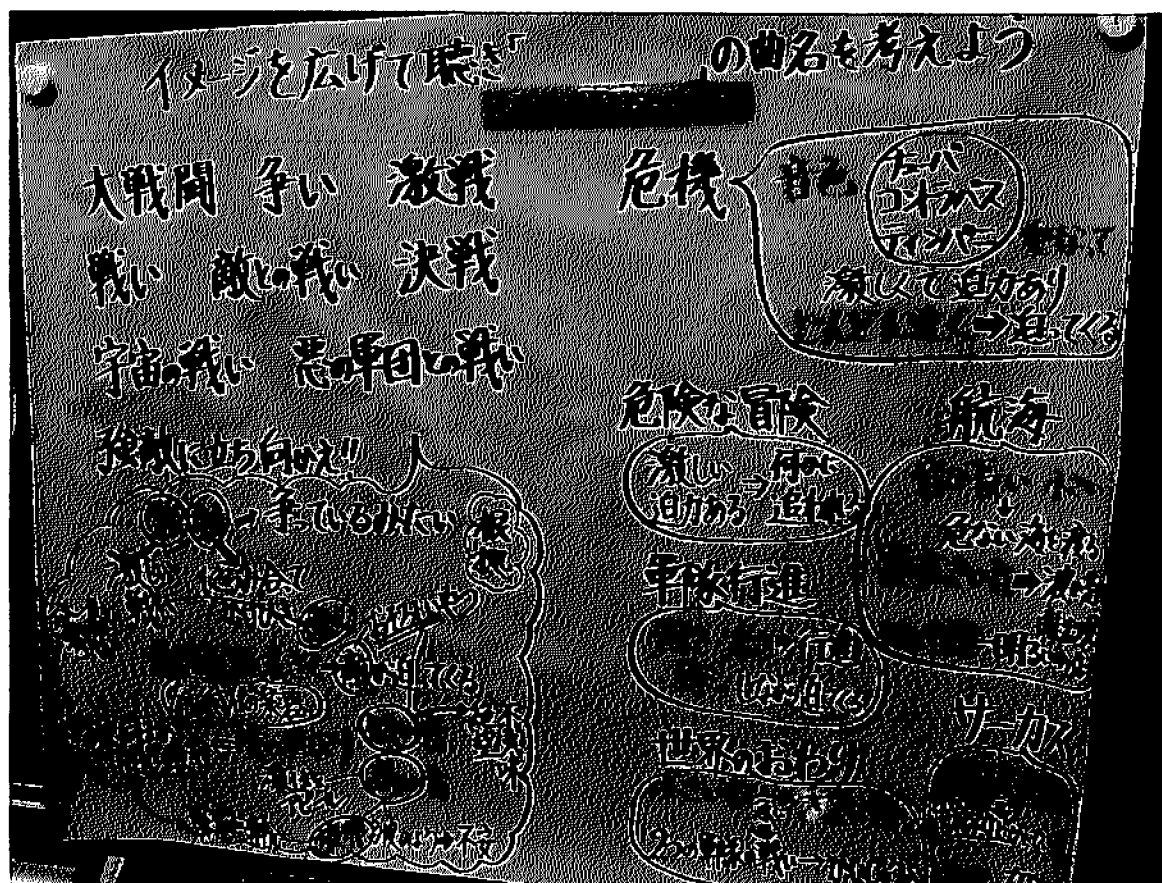
6. 本時の指導 (4/5)

(1) 目標 曲想の変化(旋律、拍子、速度)を感じ取り、曲の流れを味わって聴く。

(2) 展開

時間	学習活動と内容	○教師の支援 ☆評価規準 【評価方法】	備考
2	1 「木星」の第4主題を鍵盤ハーモニカ、リコーダーで演奏する。	○それぞれの楽器の音色のよさを生かして演奏するように声をかける。	拡大楽譜
	曲想の変化を感じ取って、曲の流れを味わって聴こう。		
13	2 「木星」のCDを聴く。 ・全体を聴く。 ・指揮をしたり、旋律を口ずさんだり、音楽に合わせて体を動かしたりしながら自由に鑑賞する。 ・感じ取ったことや気づいたことを発表する。(ペアー全体)	○今までの鑑賞の仕方を参考に「音楽のひみつ」を意識しながら鑑賞するよう助言する。 ○曲名は伏せて聴かせ、第4主題が出てきたときの児童の感動を大切にする。 ○どんな楽器で演奏しているのか、どんなことをイメージしたかなど、感じたことを一人一人に表現させる。	CD
22	3 曲想の変化について感じ取って聴き、構成に気付く。 ・第1部を聴き、曲想が変わったところで手を挙げ、大きく3つの主題に分かれていることを確認する。 ・第1部第1主題、第2主題、第3主題をそれぞれ聴き、旋律や拍の流れなどを手の動きで表し、気付いたことをワークシートに書く。 ・第2部第4主題を聴き、旋律や拍の流れを体や図形楽譜、言葉などで表し、第1部との曲想の変化を感じ取る。 ・第1主題～第3主題→第4主題の曲想の変化について気付いたことを、グループで交流し、発表する。	○第4主題の出現で曲想に大きな変化があることを確認し、大きく分けるとその前後で3部形式の構成の曲であることを気付かせる。 ○手を挙げる時には、自分が感じたことを大事にさせ、感じ方の違いを認める声かけをする。 ○3つの主題をそれぞれ繰り返し聴き、特徴のある旋律や拍の流れを手や体で表現させる。 ○第1主題は、教師が作った図形楽譜を示したり曲想について全体で確認したりして、ワークシートの記述への助けとなるようにする。 ○第1部との曲想の違いを意識して鑑賞させる。 ○ワークシートの記述をもとに、感じ取ったことを「音楽のひみつ」とかわらせて発表させ、感じ方を共有させる。 ☆曲想の変化を感じ取りながら聴き、手や体、図形楽譜、言葉を使って表現している。 【発音の内容】【ワークシート】	CD 主題の旋律の拡大図 図形楽譜 ワークシート
6	4 「木星」第2部までを通して聴き、曲想の変化を味わって聴く。	○図形楽譜を見たり、体を動かしたり、目をつぶったりして、味わいながら聴くようにさせ、感じ取った曲想の変化を確かめさせる。	CD
2	5 今日の学習の振り返りをする。	○ワークシートに自己評価と感想を書く。	ワークシート

⑥ 児童が考えた『火星』の曲名とその根拠



⑦ 「音楽のひみつ」「音楽の玉手箱（音楽の感じを表す言葉）」の掲示

音楽のひみつ			
音色	リズム	速度	反復
強弱	旋律	音の重なり	間と答え
和声の響き	音階	拍の流れ	変化
調	フレーズ		段と繰り返

音楽室に常時掲示している。マグネット付きなので、授業で焦点化した視点を黒板に貼って使用。

音楽室に常時掲示すると共に、児童にも配布し、音楽ファイルにいれている。困ったときに、すぐ見られるようにしている。また、自分で見つけた言葉も書き足している。

音楽の玉手箱				
思い立ったことを言葉で表すために、たくさんのお言葉を集めよう！				
元気な	にぎやかな	明るい	楽しい	嬉しい
おもしろい	わくわくした	どきどきした	うきうきした	
強い	力強い	はく力がある	勇ましい	
堂々とした	はなやかな	生き生きとした		
はすむような	曲切れのよい	軽やかな		
動いているような	走っているような	歩いているような		
いそいでいるような	きびきびした	きらきらした		
落ちついた	静かな	おだやかな	ゆったりとした	
なめらかな	さわやかな	ふわふわとした		
おむたくなるような	ささやくような	そつかしい		
うつと見えた	平和な	やさしい	ふしぎな	
こわい	おそろしい	不思議な	怖いような	
遠ってくるような	あやしい	暗闇のような	寒い	
静しい	さびしい	寒い	静寂しい	

⑧「世界の音楽に親しもう」学習指導案

6学年 音楽科学習指導案

南房総市立富山小学校 6年A組

指導者 佐藤 純子

1. 題材名 世界の音楽に親しもう

教材名 ◎雅楽「越天楽」から

「越天楽今様」 日本古謡/慈鎮和尚 作歌

◎楽器による世界の国々の音楽

2. 題材について

【学習指導要領との関連】

A 表現

(1) 歌唱

イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

ウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きある歌い方で歌うこと。

B 鑑賞

ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

【共通事項】(1)

ア (ア) 音楽を特徴づけている要素 音色、リズム、速度、旋律、音階、拍の流れ

(イ) 音楽の仕組み 反復、変化

(1) 題材観

本題材は、我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ったり、そのよさを味わったりしながら、それぞれの音楽に親しむことをねらいとしている。

そこでまず、我が国には長い間に日本独特の風土や民族性に合うように改良され、形づくられてきた音楽文化があることに気付かせ、興味・関心をもちながらその特徴を感じ取ったり、その美しさを味わったりできるようにする。児童に親しませたい我が国の伝統音楽として、雅楽を取り上げる。独特な日本音階、音と音との間やリズム、和楽器の音色や響きに特徴のある、雅楽「越天楽」の鑑賞と関連付け「越天楽今様」を歌い、日本音階のゆったりとしたリズムを味わい、表現の工夫ができるようにする。

また、諸外国にもそれぞれの国の風土や民族性によってはぐまれてきた独自の文化があり、我が国とは違った音楽文化があることに気付くとともに、それぞれの国の音楽のよさを感じ取ることで親しみをもち、身近なものにしていくようにする。特に、楽器に焦点を当て教材を選択し、旋律の感じや楽器の音色などの特徴を感じ取って聴いたりする能力を育てるとともに、多様な音楽を比較して聴いたり表現したりする能力を高めることをねらいとして、本題材「世界の音楽に親しもう」を設定した。

このような活動は、自国の芸術や文化に誇りをもつだけでなく、他国の芸術や文化を尊重する態度を養うことにつながると考える。さらに、音楽の特徴や仕組みを踏まえながらそれらの多様性を感じ取り、よさや美しさを味わいながら聴いたり表現したりする能力を育てる中学校の学習へと発展していくものである。

(2) 児童の実態 (6年A組 男子10名 女子 11名 計21名 うち19名調査)

音楽(特に鑑賞活動)に関する意識調査の結果は以下の通りである。

(実施日 1月12日)

- あなたは音楽が好きですか? 好き 16名 どちらともいえない 3名 嫌い 0名
- あなたは、音楽を聴く(鑑賞)学習は好きですか? 好き 18名 どちらともいえない 1名
- 世界各地の音楽について学習してみたいと思いますか? 思う 18名 思わない 1名
- 世界各地の音楽について、知っていることはありますか?
メキシコ→マラカス 2名 ブラジル→にぎやかな音楽 中国→音の最後を伸ばす
ハワイ→ウクレレ アフリカ→太鼓を使った音楽 黒人→ティンパニっぽい楽器
黒人→笛や太鼓で激しいリズム ロシア→巻き舌で歌う トルコ→トルコ行進曲
ハーブ 無回答 8名
- 日本の音楽の特徴を書きましょう。
和な感じ 8名 ゆっくり流れる感じ 3名 なめらかな感じ 2名
静かな感じ 1名 落ち着いている感じ 1名 低い音の楽器が多い 2名
安心するような音 1名 野 12名 和太鼓 10名 尺八 8名
三味線 7名 笛 1名 竹・木などでつくられている楽器 3名

全体の約8.4割の児童が音楽の学習を好んでおり、1名以外が鑑賞学習を好きと答えている。鑑賞学習については、普段聴かないいろいろな音楽や楽器の音色が聴けるから好きという児童が多く、曲を聴いていいな~と思える理由がわかると楽しい、何の楽器が使われているか考えながら聴くのが好きというように、音楽的な特徴を感じ取ることを楽しんでいる児童もいる。一方、「どちらともいえない」と答えた児童は、音楽を聴くのは好きだけど速さやリズムを感じ取ることが少し難しい、と感じている。音楽を特徴づける要素を聴き取ることによって、そこから生み出されている音楽の雰囲気を感じ取り、音楽のよさや面白さを味わうことを楽しめるような学習にしていくことが必要である。

世界の音楽については1名以外が学習したいと答えており、その理由としては、それぞれの国の音楽がどんな音楽か聴いてみたい、日本にはない楽器を見たり演奏したりしたいという児童が多かった。楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気がとらえやすい音楽を教材とし、世界の音楽に親しませていきたい。

また、鑑賞の能力における児童の実態を調査するために、国立教育政策研究所 平成20年度「特定の課題に関する調査 小学校音楽 調査ⅡB」の問題を実施した。(資料①参照)

(3) 指導観

主体的に聴くことができるように

〇目的(活動のゴール)の明確化とモデル提示

音楽ツアーガイドになって、自分のお気に入りの音楽について校内放送で紹介するというゴールを示し、取り組ませていく。ゴールが明確になることにより、児童が目的意識を持って、主体的に音楽を聴こうとすると考える。また、教師が音楽ツアーガイドのモデルを示すことにより、どのように聴いていくのかという活動の見通しが持てるようにする。まず日本の音楽ガイドとして、雅楽「越天楽」について教師がモデルとなって紹介することにより、活動のイメージを持たせる。モデルは、世界の音楽について児童に聴き取らせたい「楽器の音色」や「音楽の雰囲気(リズムや速さなどから生み出されているもの)」に焦点化し、おすすめポイントを紹介したものにする。その後、教師のおすすめポイントを実際の音楽を聴いて確かめていく活動を行うことにより、そのポイントを聴き取ろうと意欲的に聴くことができ、また、自分たちが世界の音楽を紹介するときの聴き方にもつながっていくことができると考える。

○自ら聴いたりみたりできるコーナーの設置

お気に入りの世界の音楽を見つける活動“世界音楽ツアー”では、それぞれの音楽を聴くコーナー（CDプレーヤー）を設置し、自分が興味のある音楽から聴けるようにする。気になる音楽などもう一度聴きたい音楽については繰り返し聴きに行くなど、主体的に聴く活動ができるようにする。

世界の音楽のよさを聴く活動でも、グループごとにCDプレーヤーを用意し繰り返し聴けるようにするとともに、演奏している映像をみることのできるコーナー、それぞれの国の様子（文化や風景など）がわかる資料などをみることのできるコーナーを設置し、それらを自分たちが必要に応じて活用できるようにする。それにより、児童が世界の音楽のよさや面白さを、それらの情報と音とを結び付けながら主体的に聴くことができるようにしたい。

仲間で音楽のよさを共有できるように

○グループで聴く活動

お気に入りの世界の音楽のよさを聴く活動を、その音楽を選んだもの同士を基本として編成したグループで行う。自分の感じたことや考えたことをグループ活動の中では比較的自由に発言し合える児童の実態や、CDプレーヤーを囲んで繰り返し、また聴きたい部分を聴くことが容易であるという点から、1グループ3～4人の編成にする。グループで聴く活動を行うことにより、一人では聴き取ることが難しい児童も、仲間と話し合う中で聴き取ることができると考える。

この活動をスムーズに行うために、「越天楽」についても、教師モデルによるガイドのポイントを、音楽を聴いて確かめる活動をグループで行っていく。感じたことを伝え合いながら音で確かめていく活動を重ね、その音楽のよさを仲間と共有できるようにしたい。

○グループ同士で紹介し合う活動

音楽ツアーガイドになって、聴き取ったり感じ取ったりしたことをグループごとにクラスで紹介し合うことにより、それぞれの音楽のよさを共有できるようにする。紹介をもとにしながら、あらためてそれぞれの音楽を全体で聴くことにより、自分が選ばなかった音楽のよさについても知ることができ、音楽の見方を広げることにもつながると考える。また、校内放送で全校に紹介することにより、自分のお気に入りの音楽について知ってもらえたという達成感が味わえるであろう。

感じたことを表現できるように

○ワークシートの工夫

お気に入りの世界の音楽を見つける活動では、世界地図入りのワークシートを用意し、それぞれの国の位置を確かめながら聴けるようにする。また、聴き取った音色や感じ取った音楽の雰囲気をもメモできるようにし、お気に入り度を◎、○、△で表せるようにしておく。

また、お気に入りの音楽を聴く活動では、紹介のパターンを示しておき、自分たちが聴き取ったり感じ取ったりしたおすすめポイントの部分のみを言葉などで表現していくワークシートを用意する。それにより、感じ取ったその音楽のよさや面白さをどのように紹介するかということに、より集中して取り組むことができると考える。

○音楽に関する「音楽の玉手箱」の掲示・提示

音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを表す言葉や図表を掲示し、「音楽のひみつ」を意識できるようにする。また、音楽を聴いて想像したり感じ取ったりしたことを表す言葉の例を掲示・提示し使えるようにし、言葉による表現が苦手な児童でも、その音楽のよさを表現できるようにする。

(4) 教材について

＜雅楽「越天楽」＞

雅楽の中で最も広く知られており、元は唐から伝えられた曲である。これに日本古来の音楽が結びつき、宮中や神社、寺院の楽人たちにより今日まで伝えられている。雅楽には舞のつく舞楽と舞のない管弦があり、ここで扱う「越天楽」は管弦の代表的な曲である。これまで聴き親しんできたオーケストラの楽器の響きや構成と比較しながら、日本の独特の楽器の音色に注目して聴いたり、楽曲の特徴やゆったりとした速度やリズム、旋律の反復などを感じ取って日本古来の音楽の雰囲気を味わうことができる。

＜「越天楽今様」＞

雅楽「越天楽」の旋律に歌詞を付けたもので、今に残る日本のもっとも古い歌詞とされている。「今様」とは平安時代半ばから鎌倉時代初期にかけて流行した歌のことで、多くの人々に広く親しまれてきた。児童には、この曲から日本の伝統的な音階（五音音階）による簡潔で優雅な旋律や、ゆったりとした速度が醸し出す曲想を感じ取り、それを生かして表現することで、我が国の伝統音楽の雰囲気を味わわせたい。

＜世界の国々の音楽＞

世界の国々の楽器の演奏を鑑賞することで、身近ではなかなか見ることのできない珍しい楽器に関心をもち、我が国の楽器との相違点に気付いて、楽器の音色に親しんだり、それぞれのよさを感じ取ったりしながら鑑賞することができる。

ア. バグパイプの演奏（イギリス）

バグパイプは、イギリスのスコットランド地方に14世紀頃に伝わった楽器である。袋を脇に抱えて息を吹き込み、たまった空気を使得って袋に取り付けられたリードの付いた数本の管を鳴らす。そのため、音を持続して鳴らすこと（ドローン）ができ、このドローンにメロディーをのせて演奏していく。かなり大きな音量が出るため、軍隊用の楽器としても用いられる。

イ. メヘテルハーネ（トルコ）

メヘテルハーネとは、トルコ軍のヨーロッパ遠征に同行した軍楽隊のことを指す。ダウル（大型の両面太鼓）とズルナ（オーガエ系のダブルリードの縦笛）を中心に編成され、大音量で演奏される。宮廷の儀式で演奏された他、戦場で軍隊の士気を鼓舞したり敵を威嚇したりする役目を担っていた。この勇ましい音楽に対抗するために、ヨーロッパにブラスバンドが生まれたといわれている。鑑賞曲「ジェッディン デデン」は「先祖も祖父も」という意味で、トルコを設えた軍楽曲である。

ウ. アルフーの演奏（中国）

アルフーは、中国の2弦からなる擦弦楽器で、二胡という名前でも呼ばれている。大きさは、1メートル弱で、音を共鳴させて音域を拡大させる役割を持つ共鳴胴に、2本の弦を張った棹が取り付けられている。弓の毛には馬の尻尾の毛が使われており、弦と弦の間に挟んで音を出す点が特徴。音域はおよそ3オクターブ半あり、音色は人の声にいちばん近いとも言われている。鑑賞曲「二泉映月」はアルフーの独奏曲で、中国江蘇省無錫市の天下第二泉に移る名月の情景を描いた作品である。

エ. ガムラン（インドネシア パリ島）

パリの人々の生活に欠かせない祭りや儀礼で必ず演奏され、神聖な雰囲気を作り出し、儀式の進行を知らせたりするのが、ガムランの音楽である。ガムランは打楽器を中心に編成された合奏音楽のことで、パリにはいろいろな種類のガムランがある。竹製や木製の打楽器を用いるものもあるが、青銅製の楽器を用いるものがよく知られている。青銅製の様々な形の打楽器に太鼓や笛や胡弓などが加わり、ダイナミックな響きに特徴がある。

オ. フォルクローレ (ペルー、ボリビアなど)

フォルクローレとは、「民俗」を意味するフォークロアから派生した民俗音楽を指す言葉である。中南米の全域で用いられているが、日本では南アメリカのアンデス地方の音楽を呼ぶことが多い。アンデスを代表する葎の縦笛ケーナやサンポーニャ(アンデス版のパンパイプ)、チャランゴ(弦楽器)、チャフチャス(木の実をつないだシェーカー)、そしてボンボ(太鼓)の編成で演奏される。

カ. トーキングドラム (ガーナなど)

トーキングドラムとは、直訳すると「太鼓言葉」になる。伝統的に文字を持たないアフリカの社会において、メッセージの内容を伝える際に使用される太鼓が、総称してトーキングドラムと呼ばれている。アフリカの言語の特徴である音調言語(抑揚の違いによって単語の意味が異なる言語)を利用して、言葉のイントネーションを太鼓の音の高低やリズムで模倣する方法で行われるもので、数百年にわたる王国や家族の年代記、儀礼歌、物語、教訓などが歌われる。

キ. シタールとタブラー (インド)

インドの古典音楽は、ラーガという複雑な旋法体系とターラという独特のリズムの周期とを熟知したうえで行われる、即興的要素の大きい独唱・独奏の音楽である。シタールは撥弦楽器で、1メートル以上あるネックを膝で支えながら斜めに構え、右手の人差し指に付けた針金のピックで弦を弾いて音を出すものである。左手は、弦を押さえて音高を調整したり、弦を引っ張って多彩な装飾音を付けたりする。伴奏は、北インドで最も親しまれているタブラーで、大小の片面太鼓が対で用いられる。

ク. バラライカ (ロシア)

ロシアの代表的な弦楽器として知られているが、歴史的にはそれほど古いものではない。本来は独奏楽器ではなく民謡や随りの伴奏用であったが、19世紀末に6種類の大きなバラライカが作られ、アンサンブルの楽器としても使われるようになった。フレットのある長い棹を持ち、3本の弦をはじいて奏される。トレモノ奏法が多用され、音色は軽やかである。

3. 題材の目標
- (1) 日本に古くから伝わる音楽の楽器の音色や雰囲気味わって、聴いたり歌ったりする。
 - (2) 世界の国々の楽器の音色の特徴や、音楽の雰囲気の違いに気を付けて聴き、諸外国の音楽に親しむ。

4. 題材の評価基準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①日本に古くから伝わる音楽に関心を持ち、曲想を感じ取って聴いたり歌ったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	日本に古くから伝わるリズムや旋律を聴き取り、それが醸し出す雰囲気に浸りながら、呼吸や発音の仕方、速度を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	言葉のまとまりや語感、呼吸や発音の仕方に気を付けて、日本に古くから伝わるリズムや旋律に合う自然で無理のない歌い方で歌っている。	①雅楽の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴を聞き取り、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴いている。
②世界の国々の音楽に関心を持ち、それぞれの音楽の特徴を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。			②楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いから想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、世界の国々の音楽の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

5. 全体指導計画

次 時	○主な学習内容 ・学習活動	○評価基準 (方法)
第 一 次	<ねらい> 日本に古くからある音楽の楽器の音色や雰囲気を味わって聴いたり歌ったりする。 1 ○学習の見通しを持つ。 ・教師による音楽ツアーガイド(日本の雅楽「越天楽」)を聴く。 ・ガイドの仕方(CD、DVD視聴、資料の活用)を知る。 ○雅楽「越天楽」を聴き、楽器の音色の特徴や曲想を感じ取る。 ・グループで、教師のツアーガイドの内容(雅楽の楽器の音色や速度、リズム、旋律の反復など)について確かめる。	◇関-①(行動の観察) ◇鑑-①(発音の内容)(ワークシート)
	2 ○グループで確かめたこと(感じたこと)を紹介し合う。 ・雅楽「越天楽」のよさや面白さを全体で共有する。 ○「越天楽今様」を歌う。 ・雅楽「越天楽」と比べて聴き、雅楽のリズムや旋律の動きに合う歌い方を工夫する。	◇鑑-②(発音の内容) ◇創(発音の内容) ◇技(行動の観察)
第 二 次	<ねらい> 楽器による世界のいろいろな国の音楽に親しむ。 3 ○「世界音楽ツアー」に行く。 ・それぞれの音楽のCDを各コーナーで聴き、楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気を感知取る。 ・お気に入りの国の音楽(紹介したい音楽)を決める。	◇鑑-①(行動の観察)(ワークシート)(発音の内容)
	4 本 時 ○お気に入りの国の音楽について聴き、ガイド内容をまとめる。 ・お気に入りの音楽を選んだ者同士のグループで音楽を聴く。 ・DVDや資料コーナー等も活用しながら、聴き取ったり感じ取ったりしたことをもとに話し合ったり、音楽を聴いて確かめたりして、ガイド内容を考える。	◇鑑-②(行動の観察)(ワークシート)(発音の内容)
	5 ○グループごとに「音楽ツアーガイド」をする。 ・全体に向けてガイドをし、あらためてそれぞれの音楽を全体で聴いて確かめる。	◇鑑-②(行動の観察)(発音の内容)
課 外	○校内放送で紹介する。 ・グループごとに「音楽ツアーガイド」をしてお気に入りの世界の音楽を紹介する。	

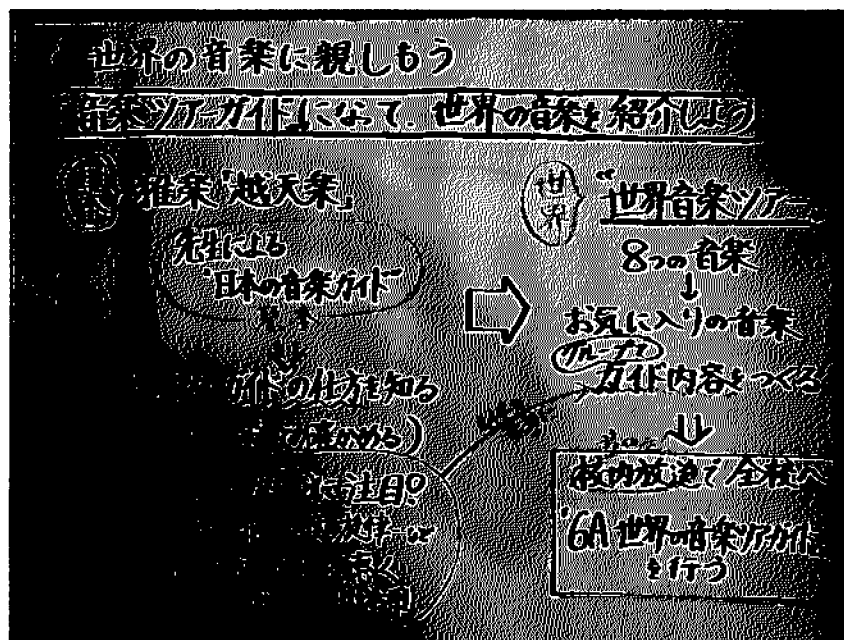
6. 本時の指導 (4/5)

(1) 目標 自分が選んだ音楽について、楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気などそのよさや面白さを感じ取って聴き、言葉で表現する。

(2) 展開

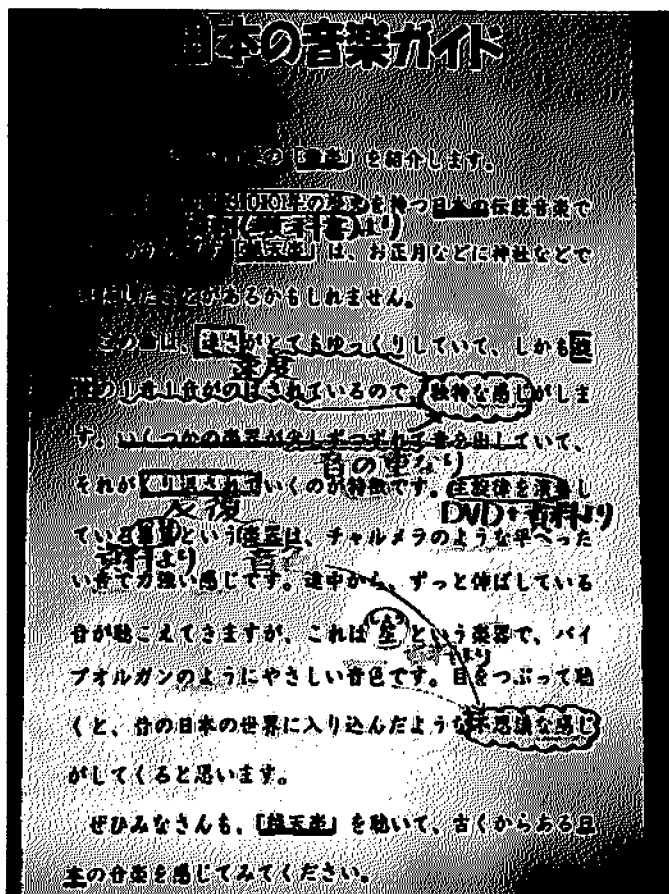
時	学習活動と内容	形態	○教師の支援 ☆評価規準 【評価方法】	備考
5	1 前時の学習を振り返る。 ・“世界音楽ツアー”で聴いた音楽について振り返り、お気に入りの音楽(グループ)について確認する。 お気に入りの世界の音楽の特徴やよさを感じ取って、ガイド内容をまとめよう。	全体	○それぞれの音楽の一部をCDで流し、前時の学習を思い出させるとともにし、本時の学習に対する意欲を高める。	世界地図 CD
5	2 学習の進め方を確認する。 ・グループごとに音楽(CD)を聴く。 ・DVDコーナー、資料コーナーも活用してよい。 ・ワークシートにガイド内容をまとめる。 ・音量に注意する。	全体	○教師によるガイドモデルを提示し、ガイド内容のイメージが持てるようにする。 ○第一次の活動を想起し、「音楽のひみつ」を意識しながら鑑賞するよう助言する。 ○それぞれのコーナーについて説明する。 ○ガイド内容は、「音楽の玉手箱」の言葉を参考にするとよいことを伝える。	教師のガイド モデル ワークシート
28	3 グループごとにそれぞれの音楽の特徴やよさを感じ取り、おすすめポイントをまとめる。 メヘテルハーベは、トルコの軍楽隊のことです。ズルナというオーボエに似た楽器とダブルという両面太鼓を中心に演奏されています。タタタタタタというリズムが流れるのが特徴的で、力強い軍隊の様子が想像できます。チャガーナという楽器は杖の先に鈴が取り付けられていて、その杖をついてリズムを刻んでいるのが面白いです。	グループ	○音楽室、家庭科室、技術室に分かれ、グループごとに音楽を聴く活動を進め、指導者は各グループを巡回し、活動に応じた助言をする。 ○それぞれの部屋に、DVD視聴コーナー、資料コーナーを設置し、自由に活用できるようにしておく。 ○DVDや資料の情報を活用しているグループには、音でも繰り返し確かめるよう助言する。 ☆楽器の音色や音楽の雰囲気を感じ取り、そのよさや面白さについて言葉を使って表現している。【見3の内容】【ワークシート】	CDプレーヤー PC DVD視聴 各資料
5	4 “音楽ツアーガイド”を1グループのみ行い、その音楽を聴く。	全体	○おすすめポイントがよく伝わるガイドを考えたグループを紹介し、その音楽を聴いて確かめ、次時への意欲づけをする。	
2	5 今日の学習の振り返りをする。	個	○ワークシートに自己評価と感想を書く。	

⑨ 「世界の音楽に親しもう」学習の見通し



授業の導入で、「音楽ツアーガイド」になって、世界の音楽について校内放送で全校に紹介しよう」という活動のゴールを示し、それに向けての学習の流れを確認し、掲示しておいた。

⑩ 教師による「日本の音楽ガイド（雅楽「越天楽」）」



教師の音楽ガイドの内容を、グループで確かめ、全体交流により、聴く視点やガイドのつくり方を確認した。

ピンク…音楽を形づくっている要素
緑…資料の活用
青(波線)…知覚したことと
感受したこと

⑪ “世界音楽ツアー” に行こう ワークシート

世界の音楽に親しもう

“世界音楽ツアー” に行こう！

世界の国々の音楽を聴き、お気に入りを見つけよう。

それぞれの音楽の特徴を、簡単にメモできる欄と、お気に入り度合いを◎、○、△で表す欄を用意。

⑫ 児童作成の世界の音楽ガイド

世界の音楽に親しもう④

♪ お気に入りの音楽の特徴やよさを感じ取って、ガイド内容をまとめよう。

6年

私たちは、(トルコ)の音楽の「メヘテルハーネ (という楽器)」を紹介します。

「メヘテルハーネ」は、トルコに古くから伝わる軍楽隊の音楽です。

この曲は、ズルナという管楽器が旋律を担っています。この軍楽隊の元さうを受けて、ヨーロッパにブラスバンドが生まれたといわれています。この音楽を聴くと、中東国のようなイメージがわくと思います。なぜかという点、低音の太いカーブのリズムで演奏されているので、中東国のイメージがわく人はいませんか。

ぜひみなさんも、「メヘテルハーネ」を聴いて、(古くから伝わるトルコ)の音楽を感じてみてください。

♪ 今日の学習を振り返って

世界の音楽という知識が、もっと深まりました。

楽器の音色や音楽の雰囲気を感じ取ることで何を学んだか？	◎
感じたことを仲間と話し合いながら、音楽で表すことができたか？	◎

世界の音楽に親しもう④

♪ お気に入りの音楽の特徴やよさを感じ取って、ガイド内容をまとめよう。

6年

私たちは、(インドネシア)の音楽の「ガムラン (という楽器)」を紹介します。

「ガムラン」は、インドネシアに古くから伝わる楽器です。この曲は、連打が少し多くして、金管楽器の音が不思議な感じがします。この曲に使われているガムランという楽器の音色は、鉄さんに似ていて、中東国に似たような音で同じ音がくり返されて、独特の雰囲気です。ガムランの音と、人の声や楽器の音がよく調和しています。

ぜひみなさんも、「ガムラン」を聴いて、(インドネシア)の音楽を感じてみてください。

♪ 今日の学習を振り返って

ガムランの音色やリズムが、とても印象に残りました。ガムランの音色が、鉄さんに似ていることがわかりました。

楽器の音色や音楽の雰囲気を感じ取ることで何を学んだか？	◎
感じたことを仲間と話し合いながら、音楽で表すことができたか？	◎

教師モデルと同じ紹介パターンにあてはめながら、それぞれの音楽のおすすめポイントを、どんな言葉で表すと相手に伝わるのか、「音楽の玉手箱」を参考にしながらまとめた。

⑬ 抽出児童の変容

～国政研「特定の課題に関する調査 小学校音楽 調査ⅡB」より～

【問題１ ④】 ※問題文の一部掲載

この曲の紹介文をかずやさんが書きました。()に入るもっともふさわしい分を考えて、紹介文を完成させてください。

この『パレード』は、イベールというフランスの作曲家がつくった曲です。A, B, C, Dの四つの部分からできています。

ぼくが、この曲をきいて一番おもしろかったのは、強弱の変化です。この強弱の変化によって、はなやかな行列や行進が()様子を表していると感じました。

抽出児	11/4	3/14	考察
A児	テンポの	近づいてきて通り過ぎていく (準正答)	変化をとらえていない →強弱による変化の様子 (AB→D)に着目
B児	にぎやかで楽しそうな	どんどん近づいてきて、 去っていく (準正答)	曲想だけの記述 →強弱による変化の様子 (AB→D)に着目
C児	進みながら演奏している	遠くから歩いてきて目の 前に、目の前からまた遠 くへ行進していつている (準正答)	変化をとらえた記述 →強弱の変化による曲想 (AB→D)まで記述
D児	だんだん近づいてきて、 そして帰っていくような (準正答)	だんだん近づいてきて、 目の前ではなやかなパレ ードをして、帰っていく (正答)	強弱の変化による曲想(AB→ D)の記述 →楽曲全体(AB→C→D)の 曲想について記述